

年 頭 挨 拶

会 長 佐 藤 廣 士



新年明けましておめでとうございます。2019年の年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

私が当会の会長を拝命してから、早や1年半以上が経ちました。この僅かな期間においても、技術や市場は着実に変貌を遂げつつあり、次の時代の輪郭が現れようとしています。また、経済状況を振り返りましても、国内においては、金融財政などの政策により、わが国の景気は緩やかではありますが回復基調で推移しつつあります。また、海外におきましても、パワーバランスの変化や反グローバリズムの台頭

など、大きな環境変化があったとはいえ、先進国が経済成長を牽引することで、新興国も含めて経済環境は概ね頑健に推移してきたと思われまます。

今後、わが国では、デフレから完全脱却し、経済が再生することで、さらなる飛躍の時代に入ることが期待されますが、その成長戦略の重要な鍵となるのが、IoT、ビッグデータ、AI、ロボティクスなどの技術革新がもたらす様々なイノベーションであるといえるでしょう。

いわゆる第4次産業革命における技術革新は、我々の社会や産業にも大きな影響を及ぼすといわれています。例えばAIとロボットの組み合わせにより、機械による自動化が飛躍的に進みます。これを自動車の運転や物流システムに実装することで、交通事故や地方における移動弱者が減少することが期待されます。自動翻訳に応用すれば、わが国の課題のひとつであった言葉の壁がなくなり、国内外の様々な情報の獲得や発信というコミュニケーションの進化につながります。

IoTが提供する新しいサービスには、地理的な制約がありません。交通事情の悪い地方の人々でも、子育てに忙しい大都市の人々でも、大きなコストを払うことなく、医療や教育のサービスの提供を等しく受けることができるようになります。

ビッグデータも社会に大きな変革をもたらします。これまでの経済活動においては、エネルギー資源とファイナンスが基本的基盤でしたが、これからは、これらに加えて良質で豊富なデータが経済活動を活性化させる大きな要素となります。分散していたデータをビッグデータとして活用することにより、例えば、工場においては省人化や生産効率の劇的な向上が図れますし、流通現場においては、顧客ニーズに木目細かに、かつタイムリーな商品やサービスの提供が可能となります。

このように、IoT、ビッグデータ、AI、ロボティクスなどのキーテクノロジーが現実の世界に存在するモノとモノ、人と機械・システム、企業と企業などあらゆるものをつなげ、企業や産業の枠を超えた新たな製品、サービス、価値を生み出すという、いわゆる「Connected Industries」が現実味を

帯びつつありますが、その実現のために解決しなければならない課題も残されています。

なかでも、技術開発におけるオープン・イノベーションの促進という課題は非常に重要です。大学や研究機関と企業との協力関係の構築は、基盤技術の高度化や先端的かつ独創的な研究成果を効率的に生み出すために不可欠であり、近年、大学や研究機関と民間企業との共同研究数や民間企業からの受託研究数は着実に増加するなど、産学官連携の活動は活発になりつつあります。しかし、1件当たりの共同研究予算のレベルで見れば、欧米に比べて約200万円程度と低額であり、わが国の産学官連携は、まだ本格化しているとはいえません。

また、産学連携だけでなく産産連携の促進も必要です。大企業間の連携のほか、イノベーションの促進に大きな役割を果たすベンチャー企業のさらなる活発化のための財政面や人材育成面での支援も急がれます。

「知的財産」は、こうした課題を解決するための最も重要なキーワードであり、イノベーションを産業の発達と社会の豊かさに結び付けるために必要不可欠なものといえるでしょう。

これまでのような、新しい技術そのものがイノベーションであった時代から、新しい技術をデザインした新たなビジネスモデルこそがイノベーションとなる、いわばイノベーションに関するパラダイムシフトのなかで、知的財産をどのように利活用するのか？これがいま我々が直面している最大の課題だと私は考えています。そして、こういった大きな環境変化のうねりのなかで、わが国の知財活動を経営のなかに確実に組み込むように牽引するのが当協会の重要な責務であると改めて痛感する次第です。

いま、当協会は、「世界から期待され、世界をリードするJIPA」,「Creating IP Vision for the World」というスローガンのもと、知的財産に関する様々な課題に取り組んでおります。

2019年は「平成」から新たな時代が幕開けする年です。産業や社会が大きな変革のときを迎えつつあるいま、当協会は、それを支えるわが国の知的財産活動を牽引し、新たな時代に橋渡しする担い手として、この幕開けの年に相応しい活動を展開していく所存です。会員の皆さまにおかれましては、引き続き、当会へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

末筆ながら、今年も会員の皆さま方にとって有意義な年となることを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。